

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	国語	現代の国語	必修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教材	「新編 現代の国語（大修館）」				
	「セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版（桐原書店）」				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、グループ活動、発表
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察、提出物

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・読書をこころがけ、積極的に論理的文章・実用的文章に触れるようにしてください。 ・積極的に各単元の言語活動に取り組むようにしてください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	「変わる」ことを楽しもう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 発表、意見交流を行う (主) 主体的に課題に取り組む	5
5	コミュニケーションは技術だ	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) コミュニケーションの適切なあり方を考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
6	ことばの使い分け	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 敬語などの言葉の使い方を適切に使い分ける力を養う (主) 主体的に課題に取り組む	5
7	正しく書こう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 文章の正しい表記の仕方を考え表現する (主) 主体的に課題に取り組む	12
8	伝わるように話そう	(知) 本文の漢字・語句を習得する	10
9		(思) 他者にわかりやすく伝える方法を考え、表現する (主) 主体的に課題に取り組む	
10	説明のしかたをとらえよう	【前期期末考査】 (知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 他者にわかりやすく伝える方法を考え、表現する (主) 主体的に課題に取り組む	5
11	ナンバーワンか、オンリーワンか	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 二つの異なる意見を比較し、それぞれの良しあしを考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
12	生きることと食べることの意味	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 文章全体の構成や接続表現の役割を考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
1			
2	ショートスピーチをしよう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 話の構成や展開を工夫して話す (主) 主体的に課題に取り組む	10
3	水の東西	【後期期末考査】 (知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 対比の關係に注目し、その意図を考えながら読む (主) 主体的に課題に取り組む	8
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	地歴公民	公共	必履修	3
科目の目標	<p>①知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める</p>				
教材	高等学校 公共 これからの社会について考える (数研出版)				
	高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート (数研出版)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	現代の諸課題を捉え概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を他季節かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を元に多面的・多角的に考察・判断・議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・「公共」は倫理、政治、経済、国際社会に分けられており、2～3年次の選択科目である「倫理」「政治・経済」の基礎となる科目です。・「18歳で成人」となる皆さんは、高校生になったのをきっかけに、世の中の動きをニュースなどで把握したり、各国の文化や考え方の違いを理解し、社会の一員となる準備をしましょう。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	【知】 青年期の意義、思想や三大宗教の内容が理解できている。 【思】 自己形成の課題について考察できている。思想や宗教、文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 【主】 社会の一員としての自覚を深め、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方、日本の伝統思想や文化、外来思想から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。	12
5 6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	【知】 近世・近現代の思想内容、地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思】 先人の生き方を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 【主】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。	14
7 8	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	【知】 法などの社会規範の役割、民主政治のあり方、日本国憲法の三大原理の内容、日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 【思】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法における権利の保障と、他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。日本の平和主義のあり方の変化について考察できている。 【主】 民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	12
9 10	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 民主参加と民主政治の課題	【知】 三権相互の関係と役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】 行政機能拡大の是非、日本政治の課題と今後の見通し、地方自治の現状と身近な地域で行われている事例について考察できている。 【主】 裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。	14
11 12	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	【知】 企業や政府の役割、市場メカニズム、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあり方が理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状、契約の原則、労働問題や社会保障について理解できている。 【思】 現代の資本主義経済と市場メカニズム、GDPと豊かさとのつながり、景気の先行きと経済の動向について考察・判断できている。労働問題や社会保障について課題を発見し、解決の方法を考察できている。 【主】 経済社会に主体的に生きる一員として、新聞などで情報を集め、現状と今後の日本経済について見通しがたてられている。労働問題や社会保障の課題について主体的に追究できている。	23
1 2	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	【知】 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割、戦後の国際政治の流れ、国際社会における日本の役割、核軍縮への流れ、世界の紛争や人権問題について理解できている。貿易や外国為替相場のしくみ、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進む世界の現状が理解できている。 【思】 国連など国際機関の現状と課題、国際社会の諸問題について考察・判断できている。貿易や為替相場の変動、地域経済統合が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。 【主】 国際政治や国際経済の課題、平和と安全を維持するため何が有効なのか、グローバル化した国際経済について主体的に追究できている。持続可能な社会のあり方について主体的に追究できている。	19
3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	【知】 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 【思】 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 【主】 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。	11
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	数学	数学Ⅰ	必履修	3
科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教材	「最新 数学Ⅰ（数研出版）」				
	「書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅰ（数研出版）」				
留意点				開講予定 人数	必履修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

副教材を、授業や家庭学習で活用する。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 数と式	【知】数の体系を実数まで拡張する意味を理解したり、数の概念に対する理解を深めることができる。 【思】式を、目的に応じて一つの文字に着目して整理したり、一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	18
5			
6	第2章 集合と命題	【知】集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に使うことができる。 【思】事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付けた上で、色々な事象や数学の概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
7	【前期中間考査】		24
8	第3章 2次関数	【知】関数の概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現する事の有用性を認識することができる。 【思】2次関数の値の変化を考察することを通じて、関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
9			12
10	【前期期末考査】		20
11	第3章 2次関数		
12	第4章 図形と計量	【知】鋭角での三角比の意味と相互関係について理解したり、鈍角まで拡張する意味と鋭角との関係を理解することができる。 【思】三角比や正弦定理、余弦定理を用いて、平面図形や簡単な空間図形の計量に活用することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
1			13
2	【後期中間考査】		8
3	第4章 図形と計量	【知】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し分析を行い、データの傾向や特徴を理解することができる。 【思】主張の妥当性について、実験などを通して得たデータを整理して判断したり、批判的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
	第5章 データの分析		6
	【後期期末考査】		
	第5章 データの分析		
			合計
			105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	理科	科学と人間生活	必履修	2
科目の目標	知識及び技能 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する思考、判断、表現 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
教材	科学と人間生活（実教出版）				
	アクセスノート 科学と人間生活（実教出版）				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。
思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養えたか。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めたか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	学習観察

3 履修上および学習上の注意

理科4分野（物理・化学・生物・地学）すべてを学習します。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1章 科学と技術の発展	【知】科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 【思】科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現している。 【主】科学技術の発展に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	4
	2章 物質の科学 1節 材料とその再利用	【知】物質の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】物質の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	5
5	2節 食品と衣料		13
	【前期中間考査】		
6			1
	3章 生命の科学 1節 生物と光	【知】生命の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】生命の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	6
7			6
8	2節 微生物とその利用		6
9			6
	【前期期末考査】		
10			1
	4章 光の性質とその利用 1節 光の性質とその利用	【知】光や熱の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】光や熱の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	6
11			6
	2節 熱の性質とその利用		8
12			8
1	【後期中間考査】		
2	5章 宇宙や地球の科学 1節 身近な天体と太陽系における地球	【知】宇宙や地球の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】宇宙や地球の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1
3			7
	2節 身近な自然景観と自然災害		7
	【後期期末考査】		6
	6章 これからの科学と人間生活	【知】これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。 【思】これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察している。 【主】これからの科学と人間生活に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1
			5
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	保体	体育	必履修	3
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技テスト・ゲーム、ワークシート
思考・判断・表現	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。 ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。 ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	1 「体づくり運動」	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を目指し、取り組むことができる 【思】下記※1 参照	8
	2 「体育理論」	【学】下記※2 参照、話し合いに貢献しようとしている	3
5	3 「器械運動（マット運動）」 「陸上競技（走・投）」	「体育理論」 【知】スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】自主的に学習に取り組んでいる	14
6	4 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「器械運動（マット運動）」	「器械運動（マット運動）」 【知】基本的な技や発展技を滑らかに安定して行うとともに、それらを構成し演技することができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を讃えようとしている	14
7		「陸上競技（走・投）」 【知】記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の行い方や体力の高め方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、ルール・マナーを大切にしている	
8	5 「陸上競技（走・投）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	「球技<ゴール型>」 【知】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	14
9		「球技<ネット型>」 【知】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
10	6 「領域内選択（球技）」 ・<ゴール型>サッカー ・<ネット型>ソフトテニス ・<バレーボール型>ソフトボール	「球技<バレーボール型>」 【知】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	12
	7 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	「武道（柔道）」 【知】相手の動きの変化に応じた基本動作や基本技・連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている	12
11		「ダンス」 【知】ダンスの楽しさや喜びを味わい、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現を通じた交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照（特に表現について） 【学】下記※2 参照、作品や発表などの話し合いに貢献している	
12	8 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 「ダンス」		12
	9 「体育理論」	「スキー」 【知】技能の向上の楽しさ・喜びを味わうとともに、安定したスキー操作を実践することができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている	3
1	10 「スキー」		12
2		※1 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 自主的に取り組んでいる、互いに助け合い教え合おうとしている、一人一人の違いに応じた動きや課題、挑戦などを大切にしている、健康・安全を確保している	
3			
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	保体	保健	必履修	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・1単位科目のため欠課時数に留意すること。・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	【現代社会と健康】	「健康の考え方」	2
	01「健康の考え方と成り立ち」	【知】国民の健康課題や健康の考え方が変わってきていること、健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している	4
	02「私たちの健康のすがた」		
5		【思】現代社会と健康における情報や事象について、整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している	
		【学】※1参照	
6	03「生活習慣病の予防と回復」	「生活習慣病などの予防と回復」	4
	04「がんの原因と予防」	【知】健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
	05「がんの治療と回復」		
	06「運動と健康」	【思】自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスク軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している	
7	07「食事と健康」		
	08「休養・睡眠と健康」	【学】※1参照	
	09「喫煙と健康」	「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」	4
	10「飲酒と健康」	【知】喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えること、それらの対策には個人や社会環境への対策が必要であること、を理解している	
	11「薬物乱用と健康」		
8		【思】我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している	
		【学】※1参照	
9	【前期期末考査】		1
	12「精神疾患の特徴」	「精神疾患の予防と回復」	4
	13「精神疾患の予防」	【知】精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること及び心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
10	14「精神疾患からの回復」	【思】習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している	
		【学】※1参照	
11	15「現代の感染症」	「現代の感染症とその予防」	4
	16「感染症の予防」	【知】感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること、その予防には個人の取組及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
	17「性感染症・エイズとその予防」	【思】感染症の発生や流行には違いがみられることについて整理し、感染のリスク軽減のための個人の取組及び社会的な対策に応用している	
12		【学】※1参照	
1	18「健康に関する意思決定・行動選択」		2
	19「健康に関する環境づくり」		
2	【安全な社会生活】	「安全な社会づくり」	4
	01「事故の現状と発生要因」	【知】環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故の防止には車両の特性の理解・適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が関わることを理解している	
	02「安全な社会の形成」		
3	03「交通における安全」	【思】様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している	
	【後期期末考査】	【学】※1参照	1
	04「応急手当の意義とその基本」	「応急手当」	4
	05「日常的な応急手当」	【知】適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい手順があること、応急手当は速やかに行う必要があること、を理解し、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる	
	06「心肺蘇生法」	【思】習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾患に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している	
		【学】※1参照	
		※1 自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している	
			合計 35

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	英語	英語コミュニケーションⅠ	必履修	3
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア：日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア：日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援があれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝え合えるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に伝えられるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に文章を書けるようにする。</p>				
教材	<p>All Aboard! English Communication Ⅰ (東京書籍)</p> <p>クラウン チャンクで英単語 Basic (三省堂)</p> <p>高校英語へのステップ (東京書籍)</p>				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的话题や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト リスニングテスト 等
思考・判断・表現	定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・提出物 授業や課題への取り組み

3 履修上および学習上の注意

・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション	(使用教材や授業の進め方)	1
	Warm-up 1 アルファベット	(知) アルファベットについてその決まり事を理解している。また書くことができる技能を身につけている。	1
	Warm-up 2 教室で使う表現	(知) 教室で使う表現について理解している。 (思) 教室で使う表現について適切に使っている。 (主) 教室で使う表現について適切に使おうとしている。	2
	Warm-up 3 辞書の使い方	(知) 辞書の使い方を理解している。	3
	Communication 1	(知) 自己紹介を英語でできる。 (思) 自己紹介で表現力を見せる。 (主) 相手が理解しやすいように自己紹介ができる。	6
5	英文のしくみ 1・Pre-Lesson 1	(知) 自分のことをbe動詞を用いて表現できる。 (思) 自分のことを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分のことを相手に理解しやすく伝えようとしている。	3
	Pre-Lesson 2	(知) 一般動詞を用いた文を理解している。 (思) 一般動詞を用いた文で相手に情報を伝える。 (主) 一般動詞を用いた文を相手に理解させようとしている。	1
6	Lesson 1	(知) 動詞の過去形の用法を理解している。 (思) 好きな食べ物について、相手の意見、自分の考えを伝える。 (主) 好きな食べ物について、自分の考えを伝えようとしている。	7
7			1
8	【前期中間考査】		10
9			3
10	Lesson 2 文法のまとめ 1 Let's Listen 1	(知) 進行形の文の用法を理解している。 (思) 好きな動物について、考えを表現できる。 (主) 好きな動物についての考えを表現しようとしている。	8
	Lesson 3 Communication 2	(知) 助動詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	3
			1
11	【前期期末考査】		9
12	Lesson 4 英文Eメールの書き方 Extra Target 1	(知) to不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 行ってみたい所、行ってみたいことを表現できる。 (主) 行ってみたい所、行ってみたいことを表現しようとしている。	6
	Lesson 5 Let's Listen 2 英文のしくみ 2・文法のまとめ 2 Reading 1、Extra Target 2	(知) 動名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	9
			1
1	【後期中間考査】		9
2			1
3	Lesson 6	(知) 受け身を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	8
	Lesson 7	(知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	8
	【後期期末考査】		合計
			105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	工業	工業技術基礎	必修	3
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決するために必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
教材	工業技術基礎 (実教出版)					
留意点					開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術が身についている。
思考・判断・表現	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身についている。
主体的に学習に取り組む態度	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	レポート・日報、課題や授業への取組
思考・判断・表現	レポート・日報、課題や授業への取組
主体的に学習に取り組む態度	課題や授業への取組、課題等の提出状況

3 履修上および学習上の注意

<p>・実習機器の取扱いには十分注意すること。また、安全作業に留意し、整理整頓・正しい身だしなみを心がけること。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	【電気分野】 ○オリエンテーション ○直流電圧計・電流計の使い方	【知】各計測器の取扱いについて理解している。	3
		【思】各計測器に記される記号から測定器の使用方法を判断できる。	3
5	○オームの法則の実験	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	3
		【知】オームの法則を用いて電圧、電流、抵抗をそれぞれ求めることができる。	
6	○抵抗の直並列接続の実験	【思】実験結果やグラフより電圧、電流、抵抗の各関係性を見いだすことができる。	3
		【主】実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	
7	○キルヒホッフの法則の実験	【知】直並列回路の合成抵抗や回路の電流、電圧を求めることができる。	3
		【思】直並列回路の分圧、分流について理解し、説明することができる。	
8	○テストの製作	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	3
		【知】半田付け作業を安全且つ正確に行うことができる。	
9	○ホイートストンブリッジによる抵抗の測定	【思】抵抗のカラーコードを理解するとともに抵抗の役割を理解している。	3
		【主】テスト製作に主体的に取組もうとしている。	
10	○キルヒホッフの法則の実験	【知】ホイートストンブリッジの取扱いを理解し、抵抗値を測定できる。	3
		【思】ホイートストンブリッジの原理について説明することができる。	
11	○キルヒホッフの法則の実験	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	3
		【知】キルヒホッフの第一法則、第二法則を用いて、電流、電圧を求めることができる。	
12	○テストの使い方	【思】計算値と理論値について理解し、説明することができる。	3
		【主】実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	
1	○電気工事Ⅰ	【知】テストの取扱いについて理解している。	3
		【思】測定誤差について理解し説明することができる。	
2	○テストの使い方	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	3
		【知】電気工事の単位作業ができる。	
3	○論理回路Ⅰ	【思】単線図より複線図を作図することができる。	3
		【主】実習に主体的に取組もうとしている。	
4	○電圧計・電流計の内部抵抗の測定	【知】テストの取扱いについて理解している。	3
		【思】測定誤差について理解し説明することができる。	
5	○第二種電気工事士試験対策	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	39
		【知】真理値表や論理式を理解し、実習盤に結線することができる。	
6	○第二種電気工事士試験対策	【思】真理値表から論理式やタイムチャートを作ることができる。	39
		【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	
7	○第二種電気工事士試験対策	【知】電圧計・電流計の内部抵抗を測定できる。	39
		【思】内部抵抗を理解し、電圧、電流、抵抗の関係性を見いだすことができる。	
8	○第二種電気工事士試験対策	【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	39
		【知】電気工事に関する基本的な知識を習得している。	
9	○第二種電気工事士試験対策	【思】電気工事の特徴を踏まえ、適切な施工や工具の選択ができる。	39
		【主】工事士試験対策授業に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	
10	【建築分野】 ○オリエンテーション ○線の練習	【知】製図用具の種類や基本的な使い方と理解し、正確で美しい線を表すことに意欲的に取り組む知識・技能を身につけている。	3
		【思】製図の基本である線と文字の表し方や描き方について適切に思考・判断し、正確で美しい線や文字の表現方法を身につけている。	6
11	○構造模型製作	【主】製図の基本である線と文字の表し方や描き方について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身につけている。	9
		【知】合理的な木造軸組構法の基礎的な知識と技能を身につけて、模型製作を通して軸組構造の原理を理解している。	
12	○模型製作（住吉の長屋）	【思】部材の取りつけ位置や組み合わせ方の工夫について思考・判断し、構造部材の役割を模型製作を通して表現することができる。	15
		【主】主体的に模型製作に取り組み、構造上安全で合理的な部材の組み合わせを工夫する実践的な態度を身につけている。	
1	○建築製図（土台・配置図・平面図）	【知】建築家安藤忠雄の住吉の長屋を例に、建築における模型製作の基本を学び、道具の扱い方や模型組立の技術を身に付けている。	39
		【思】部材の取りつけ位置や組み合わせ方の工夫について思考・判断し、効率よく正確な模型をつくることことができる。	
2	○建築製図（土台・配置図・平面図）	【主】主体的に住宅建築に関する基礎的な技術に関心を持ち、模型製作に意欲的に取り組む態度を身につけている。	39
		【知】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面の描き方の手順を習得し、正しい線の使い方によりきれいに描き上げる実践的な知識・技能を身につけている。	
3	○建築製図（土台・配置図・平面図）	【思】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面のかき方の手順に常に思考・判断し、正しい線の使い方によりきれいに描き上げる実践的な行動力を身につけている。	39
		【主】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面のかき方の手順に興味・関心を持ち、正しい線の使い方によりきれいに描き上げる取り組み態度が身につけている。	
※オリエンテーション3時間は共通 ※11月以降はコース別選択			合計 147

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	工業	電気回路	必修	3
科目の目標	①知識及び技術 電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教材					
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 電気回路の要素 1.電気回路の電流・電圧・抵抗	【知】電流・電圧・電気抵抗における計算方法について理解している。 【思】電流・電圧・電気抵抗の関係を理解している。	10
5	2.電気抵抗	【主】電流・電圧・電気抵抗などの考え方に関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。 【知】断面積、長さ、抵抗率を用いて、導線の抵抗値を計算できる。 抵抗温度計数を用いて、導線の抵抗値を計算できる。	7
6	【前期中間考査】	【思】抵抗値の変化が電気回路に与える影響について理解ができる。 【主】導体の材質や形状、温度により、抵抗値が異なることに関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。	1
7	第2章 直流回路 1.直流回路の計算	【知】直流回路における計算方法について理解している。 【思】直流回路における適切な公式・法則を選択できる。	20
8	2.消費電力と発熱量	【主】直流回路が社会で活用されている場面に関心をもち、主体的かつ協働的に学ぼうとしている。 【知】電力と熱の関係性について理解している。 電力量とジュール熱の変換ができる。	6
	3.電気の各種作用	【思】電気回路の安全性について理解し、状況に応じた判断ができる。 【主】電流が熱を発生する現象に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。 【知】一次電池、二次電池の違い、用途を理解している。 【思】目的に合致した電池を選別できる。 ファラデーの法則、熱電効果について理解している。	8
9	【前期期末考査】	【主】電流の化学作用や各種電池の原理に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。	1
	第4章 電流と磁気 1.磁気	【知】磁気のことを理解し、計算方法について理解している。 【思】磁気のことを理解し、種々の課題解決に応用できる。	8
10	2.電流の磁気作用	【主】磁気現象の利用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。 【知】電流と磁界の関係を理解し、計算方法について理解している。 【思】電流と磁気のことを理解し、適切な公式・法則を選択できる。 【主】ヒステリシス現象に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。	10
	【後期中間考査】		1
12	3.磁界中の電流に働く力	【知】電流と磁界中の導体に働く力の大きさの関係を理解し、適切な公式・法則を選択できるとともに、計算できる。	12
1	4.電磁誘導作用	【思】導体と磁界の位置関係による導体に働く力への影響を理解できる。 【主】電磁力の活用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。	20
2		【知】起電力およびインダクタンスの関係を理解し、適切な公式・法則を選択できるとともに、計算できる。	
3	【学年末考査】	【思】起電力の大きさ、向き、インダクタンスについて理解し、表出することができる。 【主】電磁誘導作用の活用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。	1
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1 年	工業	工業情報数理	必修	2
科目の目標	<p>①知識及び技術 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の論理を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教材	情報技術検定問題集 2・3級C言語 (実教出版)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の論理を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	10章 数値処理	【知】数値や単位の組合せを理解し、卓上電子計算機を用いて数値を求めることができる。	5
5	検定へ向けての実践問題	【思】量の名称・量記号・単位(SI)について説明できる。	6
	【前期中間考査】	【主】量の名称・量記号・単位(SI)について関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 検定試験合格に向け主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	1
6	6章 ハードウェア	【知】2進数と16進数を理解し、四則演算や変換・計算ができる。	8
7	7章 コンピュータネットワーク	論理回路の機能を理解し利用する知識が身に付いている。 コンピュータの構成や動作原理、ネットワークに関する用語を理解している。	2
		【思】10進数の構成から、2進数と16進数の構成を説明できる。 基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。	
		【主】論理回路の特徴や利用、コンピュータの構成やネットワークに使用する機器やプロトコルに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	3
8	1章 産業社会と情報技術	【知】情報に関する用語を理解している。	
		【思】情報化社会におけるモラル、セキュリティ管理について具体的に考えている。	
		【主】コンピュータの特徴・利用や情報化社会の権利とモラル、情報セキュリティと対策などに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	1
	【前期期末考査】		
9	2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	【知】各種装置の特徴などについての知識を身に付けている。	3
	9章 情報技術の活用	アナログ情報のデジタル化について理解している。	3
		【思】OSとハードウェア、ソフトウェアの関係が考察できる。 目的に応じたマルチメディアコンテンツや機器を選択できる。	
		【主】ソフトウェアやマルチメディアに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	
10	3章 プログラミングの基礎	【知】基本的なプログラムを作成し、実行する技術を習得している。	6
11	5章 Cによるプログラミング	四則計算・選択処理・繰り返し処理プログラムを作成する技術を身に付けている。 コンピュータ制御に関する用語を理解している。	10
	【後期中間考査】	模擬問題に対し適切な答えを求めることができる。	1
		【思】プログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考え、流れ図として表現できる。 プログラムを読み、出力結果を考察できる。	4
12	8章 コンピュータ制御	身のまわりの機器がコンピュータ制御されていることを知り、どのような制御を行っているか説明できる。	8
1	検定へ向けての実践問題	【主】アルゴリズム・流れ図・プログラムやコンピュータ制御や組み込み技術などに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	1
2	【学年末考査】		8
3	プログラミングの実践	検定試験合格に向け主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
			合計
			70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	工業	建築構造	必修	3
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者としての科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
教材	工業714 建築構造（実教出版）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技能が身に付いている。
思考・判断・表現	建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者としての科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、課題や授業への取組
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、課題や授業への取組、課題等の提出状況
主体的に学習に取り組む態度	課題や授業への取組、課題等の提出状況

3 履修上および学習上の注意

課題や授業への取組、課題等の提出状況

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 建築構造のあらまし 1 建築構造の歴史的発達 2 建築構造のなりたち 3 建築構造の分類 4 建築物に働く力	【知】 建築構造の基礎的な知識を身に付け、身近な建築物や歴史的建築物が関わる社会的環境や意義について理解している。 【思】 建築構造の基礎的な知識をもとに、身近な建築物を観察し、それぞれのなりたちや分類について思考・判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	15
5	5 関連する法規と規準	【主】 建築構造の基礎的な知識や技能の習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。	
6	前期中間考査		1
7	第2章 木構造 1 構造の特徴と構造形式 2 木材 3 木材の接合 4 基礎 5 軸組 6 小屋組	【知】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、木構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	30
8	7 床組 8 階段 9 外部仕上げ 10 内部仕上げ	【主】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
9	11 木造枠組壁構法		
	前期期末考査		1
10	第3章 鉄筋コンクリート構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鉄筋 3 コンクリート 4 基礎 5 躯体	【知】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識を習得し、鉄筋コンクリート構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	20
11	6 仕上げ 7 壁式構造 8 プレストレストコンクリート構造	【主】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
12	後期中間考査		1
1	第4章 鋼構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鋼と鋼材 3 鋼材の接合 4 基礎と柱脚 5 骨組 6 仕上げ	【知】 鋼構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識を習得し、鋼構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 鋼構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	20
2	7 軽量鋼構造と鋼管構造	【主】 鋼構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	
	後期期末考査		1
3	第5章 合成構造 1 構造のあらまし 2 鉄骨鉄筋コンクリート構造 3 コンクリート充填鋼管構造	【知】 合成構造に関する基礎的な知識を習得し、技術や技能の概要を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 合成構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。 【主】 合成構造の構造形式や鋼製部材、および合成構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。	16
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	2年	国語	言語文化	必履修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教材	新編 言語文化（大修館）				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・グループ活動・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	グループ活動・発表・提出物・学習観察

3 履修上および学習上の注意

読書をこころがけ、積極的に文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	言葉の森を育てよう	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 言語とはどういうものかを思考する (主) 主体的に課題に取り組む	6
5	とんかつ	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 筆者の主張の流れをとらえる (主) 主体的に課題に取り組む	7
6	児のそら寝	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 敬語などの言葉の使い方を適切に使い分ける力を養う (主) 主体的に課題に取り組む	6
7	高名の木登り	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 登場人物のセリフの流れに着目する (主) 主体的に課題に取り組む	6
8	訓読のきまり	(知) 重要語句を正確に覚える	7
9		(思) 漢文の基本的な用法を身につける (主) 主体的に課題に取り組む	
10	羅生門	【前期期末考査】 (知) 重要語句を正確に覚える (思) 登場人物の心情の変化をとらえる (主) 主体的に課題に取り組む	10
11	枕草子	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 自然の情景に対する作者の感覚をとらえる (主) 主体的に課題に取り組む	7
12	夢十夜	(知) 重要語句を正確に覚える	7
1		(思) 文章全体の構成や接続表現の役割を考える (主) 主体的に課題に取り組む	
2	筒井筒	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 話の構成や展開を工夫して話す (主) 主体的に課題に取り組む	7
3	学問のすすめ	【後期期末考査】 (知) 重要語句を正確に覚える (思) 対比の関係に注目し、その意図を考えながら読む (主) 主体的に課題に取り組む	7
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	2年	国語	国語基礎	必履修	1
科目の目標	<p>国語における基礎的な知識・技能を身に付け、それらを活用し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、その力を実社会で活用力を高められるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 目的や場に応じて国語の技能を発揮できるようにするために、文章や文体・語彙を工夫できる実践的な力をつける。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、国語の力が実社会で大いに活用されることを自覚し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教材					
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、その力を実社会で活用力を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	目的や場に応じて国語の技能を発揮できるようにするために、文章や文体・語彙を工夫できる実践的な力を得ようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、国語の力が実社会で大いに活用されることを自覚し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	小テスト・単元テスト
思考・判断・表現	小テスト・単元テスト、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	提出課題

3 履修上および学習上の注意

<p>一年生で使用した「現代の国語」の教科書や「ゴイカン」を使用する場合があるので、捨てずに保管してください。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	対話のレッスン	(知) 本文の漢字・語句を習得する	5
5		(思) コミュニケーションにおける言葉以外の要素について考える (主) 主体的に課題に取り組む	
6	意見文の基礎を学ぼう	(知) 本文の漢字・語句を習得する	5
7		(思) 意見と理由を備えた基本的な意見文を考え、表現する (主) 主体的に課題に取り組む	
8	情報の力関係	(知) 本文の漢字・語句を習得する	5
9		(思) 文字・図形・絵などの読者に与える効果の違いについて考える (主) 主体的に課題に取り組む	
10	前期期末考査		1
11	魅力的な企画書を書こう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 見やすく、わかりやすい企画書をまとめる (主) 主体的に課題に取り組む	5
12			
1	プレゼンテーションをしよう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) さまざまな資料を活用しながら発表する (主) 主体的に課題に取り組む	6
2	何のために「働く」のか	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 読み取ったことをふまえ、自分の考えを広げる (主) 主体的に課題に取り組む	3
	後期期末考査		1
3	自分の考えをつくるために	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 筆者の主張をふまえ、自分の考えを深める (主) 主体的に課題に取り組む	3
			合計
			35

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	2年	地歴公民	地理総合	必履修	2
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教材	<p>高校生の地理総合（帝国書院）</p> <p>標準高等地図（帝国書院）</p> <p>高校生の地理総合ノート（帝国書院）</p>				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。地理的な課題の解決に向けて構想する。考察、構想したことを効果的に説明する
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1部第1章 地球儀と地図 地図と地理情報システム	【知】地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 【思】各種の地図や地理情報システムの特徴、利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	4
5	第1部第2章 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき	【知】世界を構成する国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。 【思】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。	5
6	第2部第1章 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	【知】世界の多様な生活文化が、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 【思】世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	14
7	世界の産業と人々の生活		
9	世界の宗教・民族・言語と人々の生活		
10	多様な生活文化と地理的環境 事例1～10		16
11	第2部第2章 複雑に絡み合う地球的課題 人口問題 食料問題	【知】地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係合っていることを理解している。 【思】地球的課題や、その解決のための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	11
12	都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題		
1	第3部第1章 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え		
2		【知】自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 【思】自然災害の特徴、防災・減災への取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	12
3	第3部第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知】生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。 【思】事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	8
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	2	年	数学	数学Ⅱ	必修	2
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
教材	「最新 数学Ⅱ（数研出版）」					
	「書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅱ（数研出版）」					
留意点	数学Ⅰの復習をすること。				開講予定人数	必修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	いろいろな式及び図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

副教材を、授業や家庭学習で活用する。2年次と3年次で、教科書の内容を半分ずつ学習します。
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 式と証明 第1節 式と計算	【知】 公式を用いて式の展開や因数分解したり、多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、計算することができる。 【思】 計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察したり、実数の性質や等式・不等式の性質などを基に、等式・不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	10
5	第2節 等式・不等式の証明		8
6	【前期中間考査】		1
7	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	【知】 複素数の理解と複素数の四則計算や2次方程式の解の性質、因数定理の意味を理解し、高次方程式を因数定理などを用いて解くことができる。 【思】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	9
8	第2節 高次方程式		8
9	【前期期末考査】		1
10	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	【知】 線分を内分、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。座標平面の直線を方程式で表すことができる。 【思】 与えられた条件から方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	12
11	第2節 円		8
12	【後期中間考査】		1
1		【知】 座標平面の円を方程式で表すことができる。 簡単な場合について軌跡を求めることができる。 不等式から領域、領域から不等式を求めることができる。 【思】 与えられた条件から方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	11
2	第3節 軌跡と領域		1
3	【学年末考査】		1
			合計
			70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	保体	体育	必履修	3
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価

観点	趣旨
知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技テスト・ゲーム、ワークシート
思考・判断・表現	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと。・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	1 「体づくり運動」	「体づくり運動」 【知】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】 下記※1 参照	6
	2 「体育理論」	【学】 下記※2 参照、	3
5	3 「球技<ネット型>」 （バレーボール） 「球技<ネット型>」 （ソフトテニス）	「体育理論」 【知】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している 【思】 課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】 主体的に学習に取り組んでいる	9
6	4 「球技<ネット型>」 （ソフトテニス） 「球技<ネット型>」 （バレーボール）	「器械運動（マット運動：集団）」 【知】 回転系や巧技系の基本的な技滑らかに安定して行うこと、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること、ができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、よい演技を讀えようとしている	9
7		「球技<ゴール型>」 【知】 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
8	5 「球技<ネット型>」 （バドミントン） 「球技<ゴ-ル型>サッカー +	「球技<ネット型>」 【知】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	9
9	<バ-スゴ-ル型>ソフトゴ-ル」	「球技<バ-スゴ-ル型>」 【知】 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
10	6 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>」 （バスケットボール）」	「武道（柔道）」 【知】 相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている	9
11	7 「領域選択」 ・「球技<ゴール型>」 （バスケットボール）」 ・「器械運動」 （マット運動：集団）」	「ダンス」 【知】 ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、互いに共感している	9
12	・「ダンス」	「スキー」 【知】 応用的・発展的な技能を習得する楽しさ・喜びを味わうとともに、斜面に応じた実践的なスキー操作をすることができる 【思】 下記※1 【学】 下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている	
1	8 「体育理論」		3
2	9 「スキー」	※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している	12
			合計 70